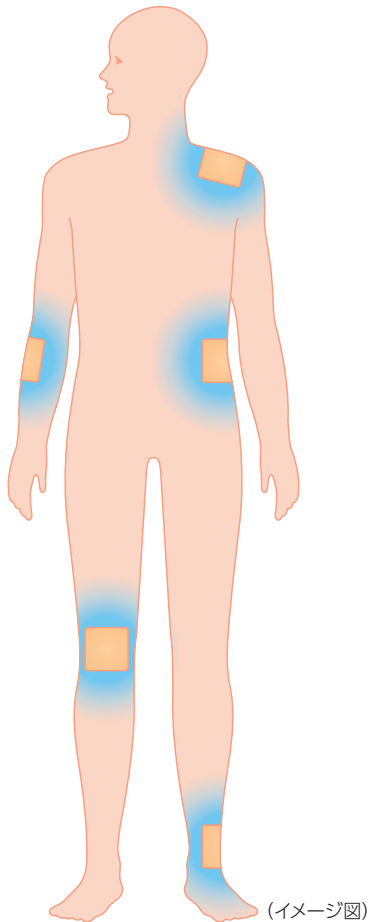


本邦で承認されている貼付剤 (2021年1月現在)



(イメージ図)

● 局所製剤

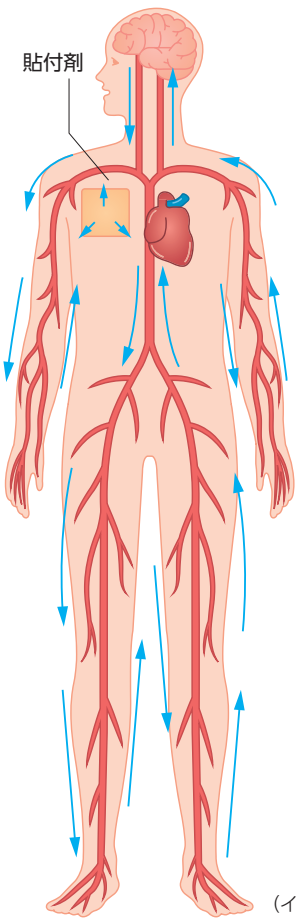
主な適応症	有効成分 一般名
鎮痛消炎	サリチル酸メチル等
鎮痛消炎	ケトプロフェン
鎮痛消炎	フルルビプロフェン
鎮痛消炎	インドメタシン
鎮痛消炎	フェルビナク
鎮痛消炎	サリチル酸グリコール
鎮痛消炎	ジクロフェナクナトリウム
鎮痛消炎	ロキソプロフェンナトリウム水和物
鎮痛消炎	エスフルルビプロフェン・ハッカ油
湿疹・皮膚炎群	フルドロキシコルチド
湿疹・皮膚炎群	デプロドンプロピオン酸エステル
静脈留置針穿刺時の疼痛緩和	リドカイン
皮膚レーザー照射療法時の疼痛緩和	
伝染性軟属腫摘除時の疼痛緩和	
注射針・静脈留置針穿刺時の疼痛緩和	リドカイン・プロピトカイン
皮膚レーザー照射療法時の疼痛緩和	
外傷・熱傷及び手術創等の二次感染	フラジオマイシン硫酸塩

各薬剤の添付文書を基に作成

● 全身製剤

主な適応症	有効成分 一般名
狭心症	硝酸イソソルビド
狭心症	ニトログリセリン
更年期障害	エストラジオール
更年期障害	エストラジオール・酢酸ノルエチステロン
気管支喘息	ツロブテロール
禁煙補助	ニコチン
がん疼痛	フェンタニル
慢性疼痛	
がん疼痛	フェンタニルクエン酸塩
慢性疼痛	
慢性疼痛	ブプレノルフィン
慢性疼痛	
アルツハイマー型認知症	リバスチグミン
パーキンソン病	ロチゴチン
レストレスレッグス症候群	
パーキンソン病	ロピニロール塩酸塩
過活動膀胱	オキシブチニン塩酸塩
本態性高血圧症	ビスプロロール
頻脈性心房細動	
アレルギー性鼻炎	エメダスチンフマル酸塩
統合失調症	プロナセリン

各薬剤の添付文書を基に作成



(イメージ図)

KYOPA116R00d
作成：久光製薬株式会社

貼る、を知る。

経皮薬物送達システム(TDDS)

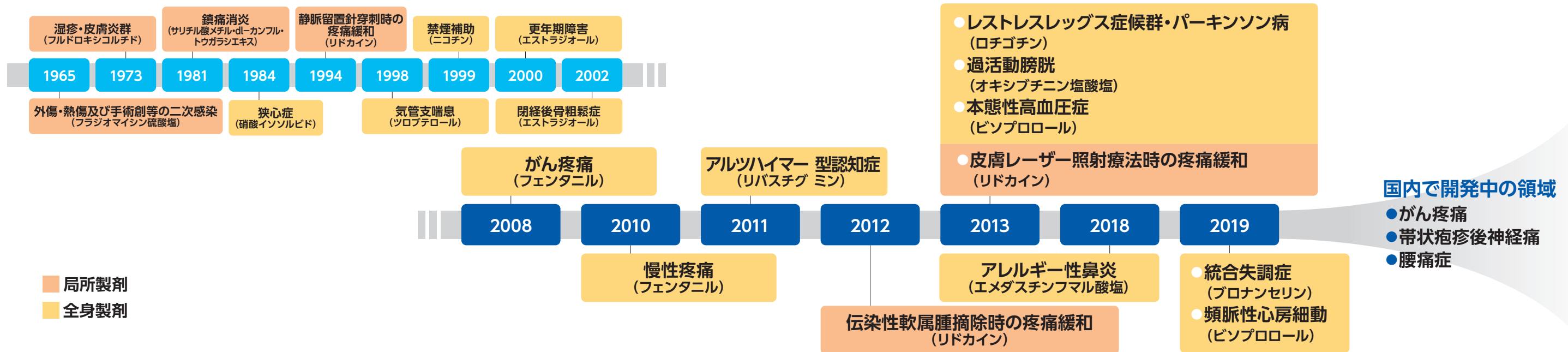
Transdermal Drug Delivery System

貼付剤の歴史と展望

監修：大谷道輝 先生 佐々木研究所

Hisamitsu®

» 貼付剤の誕生から現在まで 2021年1月現在本邦で承認されている貼付剤(発売中止品は除く) および国内で開発中の領域

各薬剤の添付文書および日本製薬工業協会ホームページ(<http://www.jpma.or.jp/>)を参考に作成

» 各適応症におけるTDDS製剤開発の背景・目的

主な適応症	TDDS製剤開発の背景・目的
過活動膀胱	抗コリン性副作用の軽減
パーキンソン病	神経変性による嚥下障害を有する患者の服薬負担の軽減 ドパミン受容体の間歇的刺激による不随意運動の軽減
レストレスレッグス症候群	Augmentation発現リスクの軽減と1日を通した症状の改善
慢性疼痛	持続的な疼痛コントロールおよび患者の服薬負担の軽減
気管支喘息	モーニングディップによる早朝発作の抑制と全身性副作用の軽減
アルツハイマー型認知症	服薬管理の可視化による介護者の負担軽減
アレルギー性鼻炎	1日を通した症状の改善および食事の影響の回避
統合失調症	1日を通した症状の改善および服薬負担の軽減

各薬剤のインタビューフォームを参考に作成

» TDDSの展望

大谷道輝 先生
佐々木研究所

近年、経皮吸収型製剤が注目されています。皮膚は最も大きな臓器であり、経皮は経口や注射に続く、薬の投与経路と考えられています。これまで紹介した経皮薬物送達システム (TDDS) は、有効成分を皮膚からほぼ一定の速度で体内に吸収させることで低く安定した血中濃度推移を保ち、安定した治療効果と全身性副作用の軽減が期待できます。TDDS技術は、本邦が欧米と並び進んでおり、市場規模も米国と並び世界のトップです。今後も、経皮吸収型製剤は増加し、2025年には世界市場規模が約10兆円に達すると市場調査会社Research and Markets社が予想しています。現在、世界で販売されている経皮吸収型製剤は20数種類と限られていますが、100種類近くが開発中です。経皮吸収型製剤は、今後も科学技術の進歩に伴い適応症が急速に拡大することが予想されます。これらの背景から、医療従事者は経皮吸収型製剤への理解を深め、適正使用に努めるとともに他職種や患者さんへの情報提供を推進することで、治療の選択肢を広げることが責務です。

貼る、を知る。POINT

- ▶ 日本では医療用医薬品として局所製剤は1965年、全身製剤は1984年から使用されています。
- ▶ 貼付剤は、他の剤形の課題を解決し、選択肢を広げるために開発されてきました。
- ▶ より多くの患者さんのお役に立てるよう、貼付剤は様々な領域で開発が進められています。